



巻頭言 『創意工夫で楽しい学びをデザインしませんか』

学校教育課 指導主事 郡司 哲朗

私は、楽しい授業づくりが好きです。コーヒーを飲みながら、「子どもたちが、この展開でワクワクするかな」と、あれこれ想像しながら毎週の授業準備をしていました。実際の授業では、思い通りにはいかないのですが、自分で創意工夫できることが教師という仕事の面白さだと思います。

私が考える楽しい授業づくりのポイントを、2つ紹介します。

1つ目は、子どもがワクワクする学びのゴールの姿を描くことです。学習発表会で総合学習等の劇やプレゼンで、学びの成果を紹介することは、よく行われています。各学校には地域の自慢があり、そういった内容をまとめ、表現する学習を仕組むのは、面白いと思います。

各教科の教科書でも、「学んだことを友達（下学年、家の人）に伝えよう」などと表現活動を取り入れた展開が多いのですが、工夫の余地があります。誰に、何を、どのように伝えたいのかを吟味することです。子どもたちの目的意識や相手意識がないとやらされる学習になってしまいます。どんな表現を活動のゴールとし、子どもたちとつくり上げるかは、教師のカリキュラムデザイン力にかかっています。

2つ目は、タブレットをどう活用するかです。1人1台タブレットが学校現場に導入されて1年半、各校で活用が進んでいます。子どもたちが、自分で調べたいことを調べられることもできるし、学習内容をまとめてプレゼンやレポート、動画などの表現ができます。個別最適な学びと協働的な学びの道具として、可能性は無限大です。

おすすめは動画作成です。ロイロノートを使って数分で動画を作って発信できるので、学習のまとめとしてCMづくり、PR動画づくりでYouTube発信等も面白いと思います。

このように、授業づくりでは、先生方自身がやりたいと思う授業をつくるのが大切ではないでしょうか。先生方の創意工夫により、子どもたちの創意工夫する学びが生まれます。楽しい授業づくりによって、十日町市の学校はすごいねという自慢がもっと増えていくといいなと思っています。

※発信の一例として、飛渡第一小学校「飛渡川の自然を守ろう」の映像を紹介します。
2021KWN日本コンテスト入賞作品(パナソニックのビデオ制作支援教育プログラム)



小中一貫教育

■ 小中一貫教育アンケートへのご協力ありがとうございました。

十日町市の小中一貫教育が、市で目指す姿「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」を具現化するために、3つの課題「学力向上」「不登校・いじめの減少」「特別支援教育の充実」の解消を目指してきたことはこれまでもお伝えしてきました。

小中一貫教育立ち上げの時期に、なぜ十日町市の子どもたちの学力が上がらず、不登校が多いのかなど3つの教育課題について、子どもたちの様々な指標から検討を重ねました。その中で浮かび上がってきたのは、次の3点です。

- ① 家庭学習を行う習慣が身に付いていない子どもが多い。
- ② 自分に自信がないという子どもが多い。
- ③ 自分の将来に夢や希望を持っていない子どもが多い。

そこで、十日町市の小中一貫教育では、小中で連携して中学校区ごとに、学習規律づくり、家庭での学習習慣や生活習慣を見直す機会、交流活動や日々の授業の中で子どもたちが活躍する機会を増やす、キャリアパスポートによる連携などを進めてきました。

そして、その成果をはかるために取り続けているのが、今年度も各学校にご協力をいただいた「小中一貫教育アンケート」です。

今、小中一貫教育第2回計画訪問等で公表しているデータは、前年度との比較データですが、ここでは小中一貫教育開始当初と比較したデータをお知らせします。

①家庭学習の習慣について

これまで、小中一貫教育完全実施以来スタート時を上回ってきた家庭等の学習の数値が今年度全市的に急激に低下し、スタート時を下回ってしまいました。子どもたちの生活習慣について注視が必要です。

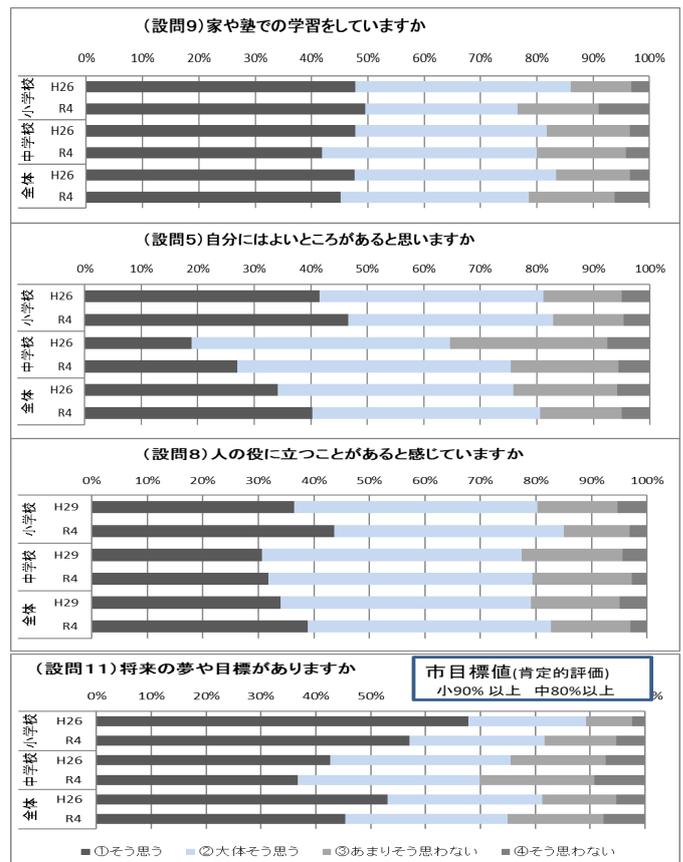
②自己有用感にかかわって

「人の役に立つ」「よいところがある」については、各中学校区で進めていただいている共通取組事項「自己有用感を育む」取組の成果が表れているものと思われます。

③将来の夢や希望について

これまでもキャリアパスポートなどの取組を進めてきましたが、なかなか改善が見られない項目です。キャリア教育の一層の充実が求められます。

その他の設問項目や中学校区ごと・学校ごとの集計もあります。小中一貫教育の次年度への計画作成等に必要の場合は担当(学事係:山岸)にお問い合わせください。



(※設問8は平成29年からアンケートを開始)

教育相談班より

「生徒指導提要」が改訂されました

平成 22 年に作成されて以降 10 年以上が経過し、近年、生徒指導上の課題が深刻化していること等から、改訂版が 12 月に公表されました。改定の主なポイントは、「積極的な生徒指導」「チーム学校の考え方」「個別課題（いじめや不登校等）を取り巻く社会環境等の変化の反映」の大きく 3 つです。

【生徒指導の構造】 2 軸 3 類型 4 層構造による支援

① 2 つの時間軸（2 軸）

プロアクティブ 課題が発生する前

リアクティブ 課題が生じた後

② 対象範囲に基づく 3 つの類型（3 類型）

発達支持 全ての児童生徒

課題予防 全ての児童生徒または一部の児童生徒

課題困難対応 特定の児童生徒

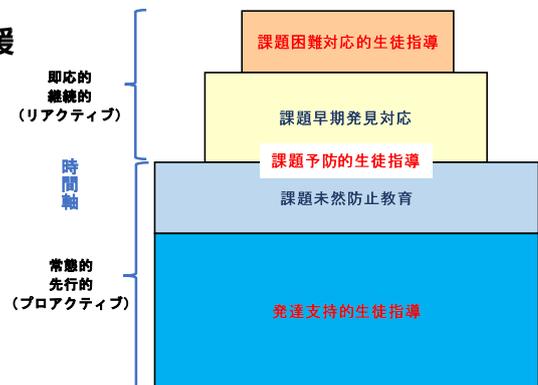
③ 対象及び課題性に基づく 4 つの層（4 層）

発達支持 特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校教育の目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤

未然防止 特定の課題を意識し、全ての児童生徒に対する生徒指導上の諸課題の発生を未然防止

早期発見対応 特定の課題を意識し、予兆が見られる等一部の児童生徒の課題深刻化を防止

困難課題対応 深刻な困難課題を抱える特定の生徒に対して組織的に対応



「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果(令和4年)」が公表されました

平成 24 年以来 10 年ぶりに行われた標記調査の結果が、12 月に公表されました。この報告によると、「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒の割合は推定値で、小学校 10.4%、中学校 5.6%となりました。前回調査と比べて割合が増えています。通常の学級担任を含む教師や保護者の特別支援教育に関する理解が進み、今まで見過ごされてきた困難のある児童生徒により目を向けるようになったことが一つの理由として考えられています。そこで、有識者会議座長の考察から、次のことをお願いします。

◆ 学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒は上記割合であり、基準に達していないが基準近くに分布している児童生徒も一定数いることから、通常の学級には特別な教育的支援を必要としている児童生徒がいることを念頭に、どのような支援を行うことができるのか検討する。

→ 管理職によるリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーターを核とし、**全教職員で必要な支援がされるよう、校内支援体制の構築と充実を図る。**

◆ 中1は、小6と比較すると、上記割合が大きく減少していることから、小中の引継ぎを確実に行う。

→ 当該児童生徒に関する**個別の教育支援計画等**を活用して必要な情報を蓄積し、**効果的な引継ぎを十分**に行う。中学校では、**学級担任と教科担任の連携を密にし、該当する行動についての情報共有を定期的**に行う。

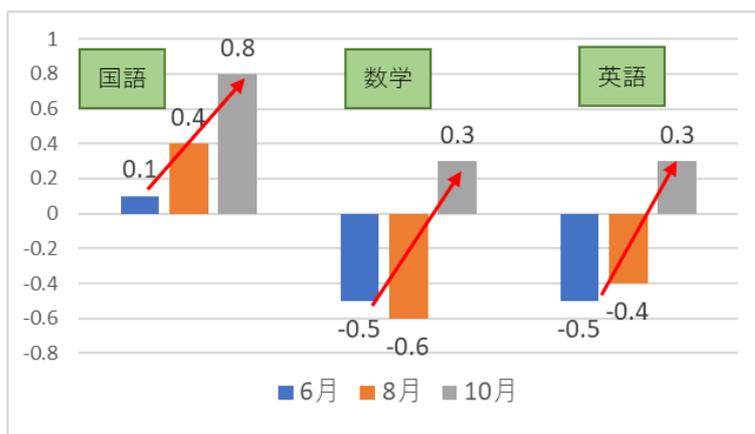
学習指導班より

「居心地のよい学級づくり」と「Web診断問題の結果(3回目まで)」について

2回目のWEBQUの結果をもとにした事例検討会の実施、全職員での学級づくり・授業づくりの推進等、各学校で「居心地のよい学級づくり」が進んでいると思います。12月に2回目のWEBQUの結果を示しましたが、着実に市内の学級の状況は向上しています。それに伴い、学力の定着や向上が図られていると考えていますが、Web診断問題の結果との関係について説明します。

(1) 学級の型・発達段階と Web 診断問題の正答率について

右の図は、ある学級の Web 診断問題の正答率の県との差の変化です。この学級は、「6月：親和型・5段階」→「11月：親和型・5段階」というWEBQUの結果でしたが、



国語では県との差が+0.1から+0.8に向上し、数学・英語ともに、県との差がマイナスからプラスに向上しています。親和型や発達段階を維持できている学級づくり・授業づくりの成果であると言えます。

全学級がこの例にピッタリと当てはまるわけではありませんが、目指すところは、親和型の学級づくりを進め、それを土台に「主体的・対話的で、深い学び」のある授業づくりを実践し、現状よりも学力が向上していくことにあります。5回目のWeb診断問題の結果が向上していくことを、学力向上に関する1つの目標にし、残りの学級づくり・授業づくりを進めてください。

(2) 学級仕舞いに向けて

今の学年・学級での活動も残すところわずかになってきました。児童生徒にとって、最大の節目がやってきます。学級が変わる、変わらないはあるとは言え、どの児童生徒も、その学年や学級が終わってしまう寂しさを感じるのではないのでしょうか。学年や学級との別れを惜しむほど「居心地のよい学級」だったと思えることは貴重なことです。しかし、大切なことは、自己の成長を自覚し、次への自信と目標をもち、新たな学年・学級へ進むことです。今までの活動と自己の成長を振り返りながら、しっかりと今の学年や学級とお別れする学級仕舞いを工夫してください。学級仕舞いが、新たな学級を親和型に導くスタートとなるよう児童生徒にとって最高となるエンディングを迎えましょう。

